

かみ よど はい じ あと
上 淀 廃 寺 跡 (国指定史跡)

米子市淀江町福岡の日本海を望む大山山麓にある古代寺院跡です。平成3年(1991年)の発掘調査によって、彩色壁画の破片が発見され一躍全国的な注目を集めることとなりました。壁画片には、「菩薩」「神将」「天衣」など様々な図容が確認され、また塑像の破片も多量に発見されています。金堂内には、如来、菩薩などが安置され、彩色壁画で荘厳に飾られていたと考えられます。

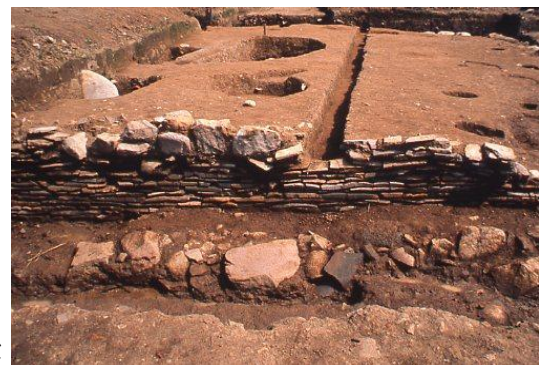
寺の伽藍配置は、西に金堂、東に塔(中塔)という配置を基本としていますが、塔(中塔)の南北に二塔を配し、三塔が南北に並ぶ特異な配置です。金堂、塔の基壇は瓦積みで、外側に石列を巡らす二重基壇となっています。中心伽藍北側の一段高い丘陵には寺院の付属施設と考えられる掘立柱建物跡が確認されています。

上淀廃寺の創建年代は出土した瓦の文字年号から天武天皇12年(683)に近いと考えられ、10世紀前後に焼失したと推定されています。

現在、上淀廃寺跡は史跡公園として整備されており、「上淀白鳳の丘展示館」では出土した壁画などをもとに金堂内部の様子が復原されています。



整備後の上淀廃寺跡



瓦積の基壇遺構



神将を描いた壁画片



草花の壁画片



軒丸瓦の文様